

## 「かおりいの手紙」

お父さん、お母さんへ

いつもありがとう。私がこれまで抱いていた想いやこれからのことを伝えるために、手紙を書くことにしました。今回静岡県の木の花ファミリーに滞在した一番の目的は、「心を立て直す」ということでした。見ていてわかったと思うのですが、私は滞在前過食症で苦しみ、うつ的な状態で引きこもりになりつつあるという状況でした。まわりの人に白い眼で見られるのが恐くて、「私は大丈夫」だと強がっていたけれど、心はぼろぼろで、毎日「死にたいな」と思いながら絶望的に生きていました。何をしても満たされず、常に心に空しさを抱えていて、とても孤独を感じていました。

木の花ファミリーに来て、毎日自分の心を見つめるという作業をして、本当の自分や本当に心が求めているものが何なのか、ということが少しずつわかってきました。今までの自分を見つめてみると、私は「まわりの期待に応えなければ」と必死に自分を追い込んで、本当の自分や正直な自分を押し殺して生きてきたことに気づきました。「結婚しなければ。孫を産んでお父さんとお母さんを安心させなければ。世間で認められる立派な人にならなければ」という想いを抱えて、でもそれに応えられない自分がいることを感じていました。どうすればいいのかわからず、「どうして友達のような一般的な価値観を持って生まれてこなかったのだろう？」と自分を責め続けていました。本当の自分の正直な気持ちを知って表現することで、まわりの人々の期待を裏切ることが恐かったし、「見放されるんじゃないか」という想いもありました。

お母さんは私に「そばにいてほしい」と思っているけれど、私が自分の人生を正直に生き始めたら、私はお母さんから離れることになるだろうという確信はありました。「私が離れた時、おじいちゃんやおばあちゃんから受けるストレスや寂しさから、お母さんがうつ状態になってしまうのではないかな。そして、お父さんに対する依存心で、自分自身を苦しめるんじゃないだろうか」と勝手に先まわりの心配をしていました。

ここに滞在している中で、私が勝手に想像した不安や期待に応えなければという心のあり方が、私自身を苦しめていたことに気づかせてもらいました。だから、これからは自分の心に正直に生きていきたいと思います。私の選択したことがお父さんやお母さんから見て間違いだと思えることもあるかもしれませんが、実際、勝手に転ぶようなこともあるかもしれないけれど、それをただ見守ってくれたら嬉しく思います。

これから私は自由でありたいと思っています。お金や結婚や常識の枠に捉われることなく、のびのびと生きていきたいのです。今の物質社会には疑問を感じるし、何かを求めて必死になってその何かを得たとしても空しさが残って、私は幸せを感じることはできません。

最近私の思う幸せは、人と人とのつながりの中にあるということを実感しています。まわりの人が笑顔で生き生きとしている姿を見ると嬉しいし、それだけで充分だなと思う自分があります。これから何をしていくのかは、まだはっきり決まっていません。だけど、お金や物を得るための生活から離れて、自然や心を大切に生きていく道を歩んでいこうと思っています。

結婚については、結婚をしたくないわけではないけれど、縁がなければしないし、縁があればするし、どちらでもいいという考えです。無理はしたくありません。

これが私の正直な気持ちです。お父さんやお母さんの正直な気持ちも聞きたいと思っています。私は素直になることで、親やまわりの人たちや神様にとても愛されていたことに気づくことができました。とても幸せです。この幸せが沢山の人の人に広がっていくことが今の私の願いです。

--

いさどん：

かおりいの特徴は頑固さです。ここに来る前も頑固だったけれど、さらに頑固に磨きがかかったのかなと思います（笑）。以前は人の顔色を見て、人のことを勝手に思っ、思い悩み、それを決めつけるという頑固さで、「それでは病気になるよ」と言ったのを覚えています。

今は、自分の道を自分らしく健康に生きていくという頑固さを身につけ、その人が楽しんでいると、周りにも良いものをもたらしていきます。頑固さも使い方次第ということです。だから、頑固な人が頑固をやめなくても、使い方を考えればいいのです。

たっちゃん：

物質社会も大切だけれど、物質社会だけではなく、今回かおりいの手紙に書いたような精神的なことの大切さに気づけ、確信を持てたことがすごく大きなことだと思います。ここと縁があって、自分の大切にしたいものが明確になったということを知って嬉しいです。それがあれば、今後の人生も充実したものになるだろうと思います。

ともちゃん：

かおりいが楽しんでくれることが私たちの喜びです！

かおりい：

ここまで手紙を書けるようになったのも、皆さんのおかげです。どうもありがとうございました（一同、拍手）。